

2022年12月22日(木)

感動をありがとう 第29回合唱コンクール

新型コロナウイルス感染症対策として2年間実施することができなかった合唱コンクールを12月21日(水)、府中の森芸術劇場を会場として行いました。本校の合唱コンクールでは、中学1年生から高校2年生が参加し、期末考査後の2週間という限られた期間を特別時間割として毎日2時間を練習にあてています。時間を限り、集中的に行い、主体性と協働性を育むことを目的としています。感染症第八波到来の中ということもあり、練習に先駆けて教職員も含めて抗原検査を実施し、健康と安全を確認した上で練習を始めました。運営に当たっては、各クラスから選出された合唱コンクール委員を中心として実施されますが、いかんせん2年間の中断は大きな壁となって生徒たちには立ちほだかり、戸惑いもありました。しかし、音楽科の大塚教頭、山元教諭をはじめとする先生方の指導やアドバイス、リハーサルを重ねることで、当日を迎えることができました。

具体的には、「クラスの団結力を深め、仲間との絆を歌で表現し、強くすること」「互いの練習の成果を聴き合うことで、音楽性や感受性をより豊かにする」ことを掲げ、取り組んで来ましたが、思いが強いクラスほど、生徒間の考えやレベルの違いが顕著になり、時にはぶつかり合うこともありました。しかし、それを皆で共有し、考えることで大きく成長する機会に繋げることができたと感じています。

当日の合唱コンクールでは、中学1年生から順に高校2年生まで学年ごとの抽選順で演奏しましたが、年齢の差以上に大きな成長の証しと感動を味わうことができた実感しています。高校2年生にとっては、中学2年生以来の、そして最後の合唱コンクールとなりましたが、やはり実力を見せつけた演奏となりました。きっとお聴きになった保護者・ご家族の皆様も「こんなに大きく成長するのだ」と感じられたことでしょう。

演奏後は、審査員を代表して声楽家のうすい こうしろう碓氷 昂之朗先生(国立音楽大学大学院修士課程声楽オペラ専攻修了)からご講評をいただきました。ま

た、私たちへのアドバイスとして、「おはよう」「hellow」という日英の言葉・音程の違いから下腹に力を入れた日常の声の出し方による練習、さらにこのコンクール実施を支え協力してくださった方々への御礼を声に出して伝えることという言葉いただきました。

やはり「合唱っていいですね」「感動するっていいことですね」。皆さん一人ひとりの取り組みと歌声に感謝します。この体験で味わった緊張感と調和への想いを、明日からの成長に繋げていってください。

校長 石飛 一吉